

## 1 テーマ：林業に係わる提言

サブテーマ「林業再生についての諸問題」

### 2 背景と問題点の絞込み

我々の部会においては当初年次計画をたて（平成 22 年 2 月 9 日）、1 年次は「農業関係」を 2 年次は「林業関係」を大テーマとして取り組むことに決定していた。したがって平成 23 年 1 月 22 日の部会からは事務局で準備を頂いた資料を中心に勉強を重ね、林業の実践を通しての部員の切実な声や持ち山の管理を見限った部員の心境などを中心に問題点の洗い出しにかかった。その中で常に問題となるテーマは「林業の衰退はなぜ進行するのか？」「林業の魅力不足の原因はなにか？」であった。そこで「なぜ」をキーワードに基本的な項目の洗い出しから作業を始めた。その結果

市面積（79,327ha）の約 87%を占める広大な森林面積（68,484 ha）の荒廃が関心事にならないのはなぜか

・ 関心を持つような「仕掛け」はないか

人工林率約 58%（39,660ha）と出荷量とはバランスがとれているか

間伐の目標設定値（1,300ha / 年、5 年間 6,500ha）は妥当なのか

バイオマス計画の推進は可能なのか

新見市において外国人による山林買収の事例はあるのか、また法的な位置づけはどうなるのか

林業家の減少と社会の林業に対する無関心の原因はなにか

作業員の高齢化・次世代の担い手不足に対する方策として団地化、広域化、集団化ができないか

・ 既存の「中山間地域等直接支払い制度」のような制度を求める

約 2 億円の林業に対する補助金の使途の実態はどうなのか

等の切り口を中心に「林業再生についての諸問題」として検討を重ねることになった。

### 3 問題点の抽出とその根拠

上記 ~ について以下 4 項目についてさらに討議を要すると考えた。

・ より..... : 「里山づくりについて」

より..... : 「外国資本による山林の買収について」

より..... : 「団地化、広域化、集団化について」

・ より..... : 「その他」

### 4 ~ の問題点に対する展開

: 「里山づくりについて」

林業に親しみその楽しさや林業を伝承する場を提供する。宿泊可能施設を有し地域の特性を生かした実習を経験するためにも地域住民との密接な協働が求められる。具体的には以下の要件を満たしたものが望ましい。

1. 当地産材によるログハウスでの共同体験
2. 林業に造詣の深い地域のリーダーが主導する
3. 山林に係わる教育の場としての機能を果たし、後継者を育成する
4. 地産を推進し地域の特徴を生かすことのできる「場」を提供する
5. 賛同者の組織化と資金面及び事後の財政面の問題を残す

#### ：「外国資本による山林の買収について」

新見を含む岡山県での事例はないが北海道をはじめ対馬などでは事例が存在すると聞く。条例制定には上位法を犯してはならない故にいまだ法整備が不可能とのことだがぜひ早急な対応を望む。

#### ：「団地化、広域化、集団化について」

(森林環境保全直接支援事業)

本年6月24日の部会において事務局から「新見市森林整備計画(2011年4月)」の抜粋を頂き次回の説明に備えていた矢先7月14日「森林管理・環境保全直接支払い制度(仮称)」が紹介された。さらに8月25日には県の治山課の説明資料「森林環境保全直接支援事業」が届いた。全容を把握するには資料が多く解釈も難しくてなかなか理解できない。そんな中で面積の制限、間伐材の搬出立米、個人負担分の割合などに厳しいガイドラインが求められているので市として助成するような支援策を検討して欲しいと感じた。また諸制度の運用に当たっては事前に「中山間地域等直接支払い制度」のような十分な説明会を開き周知の徹底をはかる必要がある(市報・説明会・座談会・関係者へのパンフ配布等の措置を講ずる)と痛感した。

#### ：「その他」

- 1) 新見産材の付加価値を高める方策はないか
  - ・ 新見産材と分かる統一ブランドの使用 ・ 地震に強い
  - ・ 質が良くて廉価 ・ 環境変化に強い(燃えにくい、腐食しにくい等)木材の研究 他
- 2) 行政サイドでプランナー、フォレスターの育成を図り新見市の森林行政の青写真を描いて欲しい。
- 3) バイオマス関係

現在オガ粉が生産されているくらいで木質バイオマスの活用は非常に限定的である。全市的な取り組みで豊富な木材資源を有効に使い雇用の創出が期待できるような事業の素案はないか。公募による「市民力」を活用することなど全市民の理解と協力が必要ではないか。
- 4) 需要拡大の刺激策としての方策として
  - ・ 公共事業に新見産材を優先利用する
  - ・ ネットを利用した販売網の多角化
  - ・ 林業家は自家製のモデル森林を持ち顧客のニーズにそった商品(原木)を見せることで差別化を計る。

## 5 : 「まとめ」

現在施行されている林業に関する補助事業は目の前の事柄が主になり将来的な展望を視野に入れた施策とは言い難いように思われる。たとえばバイオマス関連ではペレット製造に関する情報やまきストーブなどの導入など地元紙には掲載されても行政としては取り上げているようには感じられない。少なくとも 68,484 畝の広大な森林・林業に目が向いているとは言えないように思われ、このまま推移すれば当市における山林の荒廃はますます拡大の一途をたどるのではないかと懸念される。

こうした中で得た結論は以下の 2 つの事柄を提言すべきであろうということになった。すなわち、

- 1 ・今回施行された「4 - <森林環境保全直接支援事業>」の内容を早急に関係者（所有者）に周知徹底しその全容を理解してもらう
  - ・面積(5ha)や個人負担分の割合（32%）が実質的に軽減されるような市独自の制度を設けて欲しい
  - ・推進母体を森林組合へ丸投げしないで行政サイドに深く係わって欲しい
- 2 ・将来的には林業の担い手の育成でもある「4 - <里山づくりについて>」を提言し山林に興味を持てる人材を養成する必要があるのではないかと思う。熟年者には使命感を若者には山の魅力を高齢者には経験を、それぞれの階層でふるさとの荒廃に力を結集するチャンスは今を置いて他にない時代ではないかと思われる。

これらにより新見市の林業施策の独自性が創出され、林業の再生と発展の一端を担いうるのではないかと考え提言した。

それにしてもある林業家が呟いた言葉が耳を離れない。「現場の作業員が高齢化になっていて、10年もすれば作業員はいなくなるのではないかと懸念しています。集団化しても、作業員がいなと思いますので、市が対策を考えて欲しいと思います」。山を所有するすべての人の共通する思いであろうと胸に迫るものがある一言であった。

以 上